

# 西谷コミュニティだより

さようなら20世紀号

平成12年12月27日 発行  
発行 西谷コミュニティ  
(西谷地区まちづくり協議会)  
編集 広報部会

さようなら 私たちの20世紀  
明治、大正、昭和、平成と人々は懸命に生きてきました。  
時はまるで川の流れるように激流もあれば、よどみもあり、ささやかな喜びにも似た穏やかな流れもありました。  
今世紀はまた、飛躍の世紀でもありました。  
あんな事があつた……こんな事もあつた……西谷の歴史をそれぞれに振り返ってみませんか。

明治

- 6年 大原野正覚寺本堂に小学校設置 (婦来小学校と名づく)
- 22年 町村制施行・西谷村誕生・駐在所開設

明治30年 私鉄阪鶴鉄道(池田〜宝塚間)開通  
― 武田尾 畑田良男 ―

日露戦争(明治37・38年)の軍事物資輸送のために大いに役立つ。明治32年に生瀬〜三田間が開通し、武田尾駅が開業して付近の村々(西谷、名塩等)から次男坊、三男坊の人達が住むようになり現在に至る。昭和61年、複線電化となり、翌年4月には国有鉄道から民営化(JR)となった。

\*私と武田尾(畑田良男)

昭和24年に結婚して今日まで約51年余。武田尾の山の中で任んできました。若い時は勤め先が大阪・神戸と長かったの、毎晩のように赤い灯青い灯の生活でした。でも、定年になり、静かな武田尾。空気もいいし、緑いっぱい静かな武田尾は最高です。やはり……トシかなあ……。

大正11年 西谷婦人会設立  
― 境野 中嶋峯野 ―

西谷婦人会の設立当時のことは幼かったのだから分りません。会長の頃の会員は和気藹々として仲良く過ごしてまいりました。その頃は宝塚小学校の講堂を借り、西谷地区からも演劇を持ち寄り楽しい一日を過ごしました。各会長は白波五人女を演じ、私は「西谷はへっぽこ谷と言われるが、市長・議長の出身地で、春は桜に夏はホテル、秋は松茸、冬は雪、この風景は皆様の地区では見られませんまい」と巻紙を垂らして西谷の披露をしたことなどを思い出しています。

大正

大正8年 千刈水源工事  
― 波豆 今中秀一・ゆきゑ ―

千刈水源地の工事完成後、八幡神社の正遷宮(みやうつし)を祝って遷宮祭が行なわれました。東部の東さんが自転車で髪結いに来てくれ、男衆は赤い襦袢を着て行列をしました。  
\*正遷宮(神体を権殿から本殿に移すこと)

- 5年 卒業記念に銀杏を植樹
- 8年 西谷郵便局開設

大正13年 西谷自動車(株)設立  
― 西部 森脇平雄 ―

西谷バスの設立は、交通手段のなかった村にとって夢のような事でした。戦時中は物資が欠乏し、燃料の木炭を得るために自ら山林を購入し、製炭し、経営を続けた程でした。公益社に売ったり買ったりと並々ならぬ努力でしたが、西谷の足として今日に至っています。

大正14年 電灯架設  
― 上佐曾利 小西たま ―

ロウソクやランプの生活があたりまえと思っていたので、電灯があまりにも明るくてびっくりしました。でも、電気に未熟なため、身近な人が工事で大けがをされたり、亡くなられたりした事は今でも忘れることができません。(西谷地区内では上佐曾利から電灯が点きました)

昭和5年 ダリアの試作始まる  
― 上佐曾利 東 昇 ―

千刈水源地の第2期工事、小柿発電所の貯水工事等に携わっていた伯父が六甲への仕事の途中に有馬郡有野町(神戸市北区)五社にある種屋さんに野菜の種を買いに行き、そこでダリアの球根に出会ったことがダリア作りの始まりです。私は尋常高等小学校を卒業してから7年間、その種屋さんに奉公して帰ってきました。地域では養鶏、養豚もやっていました。野菜にダリアの花をくっつけて池田へ自転車運びましたが、高く買ってもらえました。ダリア1本2銭の時代です。また、作付面積の半分に「電報花」用に白いダリアを作っていました。  
(平成12月10日、上佐曾利園芸組合は創立70周年を迎えました)

昭和

- 11年 西谷青年団が二宮尊徳立像を建立、寄贈

\*西谷バスの思い出  
― 中部 辰巳健二 ―

約30年前、自家用車が一家に1台は無かった頃の通勤、通学はバスが利用されていきました。今のバスより一回り大きくて運転士と車掌の二人で運行をしており、ラッシュ時には超満員で走っていました。冬になれば今と違って雪が多く、道路の除雪も致しました。バスにはタイヤチェーンを付けなければ走行できませんので、出庫時間の1時間前には出勤をして準備をしなければならず、辛い思いをした事がありました。乗客ともコミュニケーションが良くとれて、苦しい中にも楽しい日々を過ごせたのが私にとって良い思い出です。

\*電報花

夏菊のない時代、葬儀用に使われた白いダリア。品種は白金、フレイミングで千本の注文に対して各人に割当がしてあった。「〇〇本送れ」と電報の注文があれれば各組を合わせて次の出荷日に送った。

昭和13年 電話が入る  
― 上佐曾利 今中治夫 ―

僻地である西谷の西谷局増設を部落挙げて要望しました。3番が得られたので對外を考へ佐曾利園芸組合としました。西谷村役場が1番、2番西谷村農会、6番東部組合、8番中部副業組合、他は10番までご商売(自動車、木材、呉服など)の方々でした。電報で花の注文を受けていたのが、電話に変わっても電報花として連絡してました。又、呼び出しがあれば組合からその家へ自転車で行きました。戦後の混乱期は局外通話はなかなか通じず猪名川の六瀬など交換局が多いので、申し込んで待つてより行った方が早いと思つたこともありました。電報は木津局、警察は木津駐在所の管内でした。

18年 西谷農業会と西谷信谷併合組合  
西谷農協と西谷農協  
西谷農協と西谷農協  
西谷農協と西谷農協

\*戦争―昭和18年招集―  
― 玉瀬 後中義夫 ―

博多より釜山へ一路北に進み、満ソ国境の野戦重砲通信隊の任に当たった。晴れた日にはソ連兵の行動が肉眼で見えた。マイナス40度の身も凍る寒さで凍傷のため手足切断の兵もいた。人の命の尊さと戦う事の虚しさを感じる時、戦争は絶対にしてはならないと痛感する。世界の中で今でも戦火にさまよう人々を思う時、平和の尊さをかみしめる現在である。



昭和20年 新制西谷青年団結成

明治末期から秋祭りや法会相撲が行なわれ、青年団は中心的な役割を果たして... 昭和16年大東亜戦争が勃発し、私も翌年1月に姫路師団に入隊し、まもなく満州へ行き、陸軍予備士官学校の教官をして20年8月15日に久留米で終戦を迎えました。そして10月終わり頃に復員しました。当時の村長、青年学校長から「青年の活力が発揮できるようにしたいので、青年将校教育の経験を活かして努力してほしい」と依頼されて団の結成を決定しました。戦争も終わり、「戦力」を「国力」へという理念のもと、各地で新制青年団が結成されました。新制西谷青年団(男子)の初代団長を務め、女子青年団長の西田(旧姓今北)やあの人たちと活動をしました。

\*思い出

在宅で未婚の25才までの女性が西谷村女子青年団員として活動をしました。私は昭和23年1月31日にあった弁論大会に出場して青年団活動を卒業しました。そして3日後の2月3日に結婚式を挙げました。また、昭和20年から女性にも参政权が与えられるようになり、胸踊らせながら初めての投票をしたのもその頃だったなあと懐かしく思い出されます。

昭和30年 西谷村の解体と宝塚市の合併

明治4年廃藩置県以来、連綿として続いてきた西谷村は幾多の変遷を経て昭和30年3月14日、住民投票を急ぎ中止して西谷小学校講堂に最終村会を招集した。部落有財産の所有権残存を廻って合併反対の策動の中、村民多数傍聴、怒号と感激涙の雰囲気包まれて満場一致で合併が議決され、長い歴史の幕を閉じた。当時の面積は64.1km<sup>2</sup>、人口5,891人であったが、合併により宝塚市の面積は101.89km<sup>2</sup>、人口55,205人になり全国で491市の仲間入りをした。

(資料一部宝塚市史)

昭和

24年 千川水源地水難事故

29年 宝塚市の誕生  
猪倉改修工事ダイナマイト事故

昭和32年 福寅元祖三翁碑建立

福寅の発祥は今を去る120余年明治の初期、島田小太郎、東元吉、福西定吉翁が雑穀用の箕に恵比寿、大黒の絵を張り神社の祭典に売り出したのが始まりで、その後、阿波人形から土面を考案し、伏見の人形師の術を取得し、それが基礎となり関西の十日戎はもちろんのこと今や全国各神社仏閣に至るまで初詣用品として崇敬されておりあります。

(田中詮徳修約文抜粋)



昭和33年 十万道路工事(昭和24年起工)

自衛隊により高橋まで完工し、以後、工事は林組により引き継がれた。当時は中古のブルドーザーが1台で、すべて人の労力により進められた。切畑を初め多くの男女がマイクロスプで現地に通った。据え付けのミキサーでコンクリートを練り、一輪車で運んだ。スコップ、ツルハシ等の使用が主で一輪車の行列はすさまじかった。岩石の山に新たな道造った汗の結晶である十万道路を通る時、当時の人々の苦勞に感謝の念を禁じ得ない。

昭和35年 西谷農協有線放送開設

朝のマイクカレンダーで始まる有線放送。住民の皆様は重宝され37年の歳月が流れました。当時、電話が数えるほどしかない時代に通話と放送が出来た有線、今思えばなつかしい限りです。

昭和46年 自然休養村 村開き

自然豊かな高原の盆地、宝塚市北部(西谷)農業のあるべき方向を検討して自然休養村事業が始まったのである。当時、市農政課長として勤めていたが、今、過ぎし30年の歳月を振り返り、その道筋に誤りがなかった。ここに至るまでに努力された関係者に敬意を表したい。

昭和48年 「少年自然の家」竣工

昭和48年5月5日に開所され、給食清掃の業務を市と委託契約を結び、多くの子ども達の食事を受け持ち、経験もなく大変でしたが、子ども達の笑顔に支えられ有り難いことに本年3月まで仕事が出来ました。大勢の方々に御協力いただき一生の良き思い出です。

42年 西谷~宝塚 バス運行開始

昭和41年 学校給食始まる

待ちに待った学校給食が小学校5年生で始まりました。白衣に包まれて当番時は、慣れない手つきで準備をしました。みんなで食べる給食は「美味しいし、楽しい」。毎日、献立を見て登校するのが日課になっていました。

\*25年経ちました

吹田の千里ニュータウンから昭和50年に引越してきました。3月下旬のことでしたが、うっすらと雪が積もっており、とにかく寒くて寒くてというのが第一印象でした。でも、空気がとても澄んでいて思わず深呼吸をしました。当時、子ども達は幼稚園児と小学2年生。木造校舎や赤組、白組のクラス分けも珍しいものでした。先生方は教育熱心でしたし、たくさんの友達に囲まれながら楽しい学校生活でした。多少の不便さはありますが、地元の方々にも助けていただいていた今では家族全員が西谷の生活を楽しんでます。

(平成12年9月、大岩谷自治会館が出来ました)

昭和52年 川下川ダム築工

昭和47年に着工、(株)大林組によって造られ私達の大切な水の供給源となった。友金前市長も完工式典にて鯉の稚魚をダムに放たれたとか。紅葉と青い水のコントラストの素晴らしい景色を止める人も多い。ダムに沈んだ田や周辺の山々、皆さんのご協力も忘れてはならないと思う。

昭和58年 第1回西谷ふるさと祭り開催

良元小学校のふるさとまつりを参考に西谷小学校でもやってみようと企画しました。せり市を行ったり上佐曾利のだんじりの模型を作ったり出品したりしました。子ども達はみこしを作りグラウンドを練り歩きました。初めての事で準備が大変でしたが、良い思い出です。

58年 西谷駐在所にパトカー配置



\*鶴見台を「ふるさと」として

霜一度かゝりしと云う紅葉みる鶴見台に来た頃は、池田から免許取立の車でくねくね道を通るのが嫌でした。今は良い道路が出来、西谷のあちこちで朝市も立って新鮮野菜も手に入るようになりました。自然に囲まれ、空気のいいこと、静かなこと。10周年記念誌「鶴見台のあゆみ」の中に、ああこの地 我等が故郷...と詠みました。西谷の皆様と共に一日一日を過ごしております。

\*思い(短歌5首)

梅やむまい大正昭和に平成までも生きて暮らせた倅せ想ふ  
無の心になりて素直に活きたしと  
余命いくばく八十路坂ふむ  
亡夫逝きて三十有余の歳月を  
飛べない螢で空を見上げる  
冬の五月山を偲ぶかな  
第二の古里子等羽ばたき行けり  
雷鳴のとどろく昼やほの暗し  
喝と聞き居てはげみ増なり

平成

2年 宝塚市新都市(仮称)開発基本構想発表  
5年 宝塚市新都市(仮称)開発基本計画発表(1,561ha、35,000人)

新世紀、私たちはどんな生き方をするのでしょうか。大切な一秒一秒を積み重ねて、おだやかに過ごそう。